

サ高住・施設の付加価値アップの切り札 マッサージ・リハビリ、誤嚥性肺炎防止メソッド

一般社団法人日本在宅マッサージリハビリテーション協会（JVMR）

愛媛大学大学院教授・谷川武氏の主導で設立された一般社団法人日本在宅マッサージリハビリテーション協会（以下JVMR）は、高齢者住宅・施設の入居者に向けて①マッサージリハビリテーション、②誤嚥性肺炎を防止するためのメソッドの提供を通じて、心身の機能回復、真のQOL（生活の質）維持を図ることを目的とする。拡大する高齢者のニーズを先取りするサービス活動といえるが、サ高住・施設の付加価値向上と差別化の切り札として注目を集めている。

在宅・施設におけるマッサージ・リハビリ、誤嚥予防でQOL維持

「日本は世界に前例のない超高齢社会を迎えましたが、年齢を重ねて介助や支援が必要になったとき、本人がいくら望んでも『やりたいことを自由に行なう』『食べたいものを食べる』といった人間としての根源的な欲求を満足させることはむずかしくなるばかりです。私たちは、まずは寝たきりや誤嚥性肺炎などを予防して高齢者の心身の機能回復をサポートすること、そこに豊かな『理想の老後』が

あると考え、本協会を設立しました」。愛媛大学大学院教授で、同協会長の谷川氏は協会の使命についてこう語る。

その実現に向け、まず高齢者住宅・施設に入居する高齢者の健康維持・回復を支援し、その生活の継続的な安定に優先的に取り組んでいる。「入居者の健康維持、QOL維持を図ることは入居者とそのご家族はもちろん、事業者の経営安定にも貢献します。このことが、JVMRの理念である『心身の健康をサポートし、質の高い人生の実現と健全な社会の発展に貢献する』を実現する早道であると考えます」と谷川氏は強調する。

具体的な活動目標は、①マッサージ・リハビリテーションの提供、②誤嚥性肺炎を防止するためのメソッドの提供にあるが、「マッサージ・リハビリは関節の可動領域を広げて、筋力の維持・強化に有効です。誤嚥性肺炎の予防プログラムを提供は、誤嚥予防だけにとどまらず、脳血管障害後のリハビリりまで視野に入れて構成しています」（谷川氏）とのことで、2つのプログラムは密接に関連しており、いずれも今後の超高齢社会に必須なもの

と確信するに至ったという。

活動内容は、①施設への施術者派遣…入居者の症状改善に適した施術者の選定・派遣、②施術者の研修（知識・技術力・コミュニケーション能力）…派遣施術者の定期的な評価、研修によりレベルアップを図る、③施術内容や効果の評価・測定、関係者への報告・施術による改善状況を定期的に評価・測定し、関係者に報告すること、安心とリハビリメニュー見直しを随時行なう、④専門医や研究機関との提携・研究（医科・歯科との提携）…協会として専門医や研究機関と連携し、より効果を見込めるマッサージ・リハビリ技術や誤嚥防止メソッドの見直しを行なう、などをあげている。利用者の健康状態の測定結果と評価は文書で報告・提供することで、「効果の見える化」を図っている。

マッサージ・リハビリは、理学療法士である杏林大学教授・齋藤昭彦氏（障害科学博士）と潮見泰藏氏（保健学博士）の指導のもと、医学的なエビデンスに基づき、利用者の状態ごとにメニューを作成。①全身状態の確認、②日常生活動作（ADL）の訓練、③機能回復訓練（筋力強化、関節拘縮の改善・予防）を基本に多彩なアプローチで利用者と向き合い、最適な改善・予防へと導く。そのステップは、①施設の担当者、ケアマネジャー、家族などからの協会への連絡↓②協会スタッフ



会長・谷川 武氏（医学博士）
（愛媛大学大学院医学系研究科公衆衛生・健康医学 教授）

JVMRのプログラムを導入して成果をあげるサ高住「ナーシングホーム奥戸」
マッサージ・リハビリの施術で症状が改善したナーシングホーム奥戸の女性入居者

が施設、自宅を訪問（初回訪問）し、無料相談↓③問診・測定の結果に基づいて、最適な施術者を選定↓④担当医師に診断を依頼して（診断書作成等）同意書を取得↓⑤スケジュール調整後、定期訪問の開始（料金は1割負担の場合1回212円）↓⑥定期的な評価（施術結果、身体の状態を評価・測定し、利用者や家族、担当医師、施設スタッフへ結果の報告）となる。

**サ高住「ナーシングホーム奥戸」
医療・介護・リハビリなどを提供**

今春スタートした同協会事業は8月末現在、首都圏を中心に12施設に導入されている。「ご入居者の健康増進だけでなく、施設の付加価値アップにも効果が見込めることから、年内には20施設程度まで拡大する予定」と谷川氏。その代表的施設として、東京都葛飾区のサ高住「ナーシングホーム奥戸」（全14戸）を訪問した。

今年4月に開設され、通所介護、訪問介護の各事業所を併設。医療面では在宅療養支援事業所「葛飾ナーシングホームクリニック」とも提携し、24時間365日対応する。導入については、差別化につながり、入居者に喜んでもらえるサービスであるという理由から7月より契約に至っている。

マッサージ・リハビリの施術は、入居者および併設のデイサービス利用者に対

象として週3回、1人1回当たり20〜30分（症状により異なる）実施されている。同施設の一木真美相談員によると、「施術を受けた入居者は筋の拘縮が回を重ねるごとになくなっていく様子がわかります。ご入居者、デイのご利用者のみならず、ご入居者、デイのご利用者のみなさまにたいへん好評です」と話している。同ホーム入居者の平均要介護度は4、食事は1日3食スタッフが手づくりで提供する。

「このホームはサ高住ですから、施術を受けてすっかり元気になって自宅に戻る方も出てきました」（一木氏）という。

顕著な例として、現在入居しているAさん（女性）。病院↓介護老人保健施設を経て入居し、当初は股関節痛をはじめとした関節拘縮、首まわりの炎症痛などで満足に歩くこともできず、食事摂取もままならなかった。「Aさんも入居して体力をつけ、ADLを高めて自宅に帰ることを目標としています。3カ月施術を受けた結果、歩いて食事も普通に食べられるようになり、もうすぐ自宅に戻れます。毎日お見えになる2人の娘さんも喜んでいます」（一木氏）。JVMRから派遣された施術者に感謝するとともに、その成果を素直に受け止め、今後に期待をかけている。

JVMRは、「アソシエイト」と呼ぶアスレチックトレーナー、マッサージ師などの国家資格者を多数擁し、現在約20

人が利用者のQOL向上に向けたサービス提供（再発予防、免疫力向上など）を実現している。さらに、協会認定資格職として「リハビリ機能回復士」を設け、養成するための仕組みづくりを現在準備中（来春、資格講座開始予定）である。

一方、「誤嚥」は、厚生労働省・人口動態調査（11年）の死因別疾患で肺炎が脳血管疾患を抜き、3位に入ったことなどで注目された。肺炎患者の75%以上は筋力が低下した高齢者で、うち7割が誤嚥（細菌が唾液や胃液とともに胃ではなく気管に入ってしまう）によって発症、再発を繰り返し「経鼻管栄養」「胃ろう」に至ることが少なくない。JVMRでは、谷川氏の監修により開発された「誤嚥防止メソッド」を用いて、誤嚥性肺炎予防に取り組んでいる。問診↓観察↓検査↓検査結果報告↓リハビリメニュー作成↓リハビリ実施まで3カ月を1クールとして行なうことで、嚥下機能の向上を図っている。

JVMRの最大の目的は、高齢者のQOL向上、免疫力アップを図ることで、高齢者の生きる喜び、食べる喜びを創造することで、社会貢献を果たすことにある。このほいまでもない。と同時に、その結果として、同サービスを導入する高齢者住宅・施設の付加価値アップが図れ、差別化につながるとともに、稼働率の向上にも貢献していきたいとしている。

協会概要	
名称	一般社団法人 日本在宅マッサージリハビリテーション協会 (Japan Association of Visiting Massage & Rehabilitation, JVMR)
所在地	〒170-0002 東京都豊島区巣鴨3-26-6
連絡先	T E L. 03-5567-3310
URL	http://www.jvmr.jp
代表者	会長 谷川 武 (医学博士) (愛媛大学大学院医学系研究科公衆衛生・健康医学 教授)
活動内容	・在宅マッサージリハビリテーションの提供 ・誤嚥性肺炎防止メソッドの提供



ナーシングホーム奥戸
(東京都葛飾区)



JVMRが提供する「誤嚥防止メソッド」
嚥下機能を回復するための専用器具で、誤嚥性肺炎の予防を図る